

令和 2 年度
事業報告書

社会福祉法人 豊肥福社会

第1 本部事業報告

1. 法人運営報告

豊肥福祉会は、国の動向に対応し規模拡大を開始し、5年が経過しました。1法人1拠点を脱却し、竹田市に1拠点のみあった施設は、地域ニーズに応え、大分市、豊後高田市、中津市、別府市と拡大し、現在7つの拠点を置き多様な事業を運営しています。

社会福祉法人制度改革や働き方改革、目まぐるしく変わる福祉の報酬制度に対応しながら規模拡大を進めてまいりました。また、近年続く自然災害への対策について具体的な策を危惧する中、昨年春には新型コロナウイルス感染が発生し厳しい状況が続いております。新型コロナウイルス対策では、生活様式が一変し窮屈な生活が強いられておりますが、マスク着用・三密・消毒・外出自粛などの徹底を図り、幸いにも今のところ一人の感染者も出ておりません。今後も対策の徹底を続け、感染症が発生しても速やかに事業運営が継続できるよう努めてまいります。また、地域の課題やニーズに応えるべき、福祉の基本である人権や権利擁護に注力し、職員研修を行ってきましたが、まだまだ職員一人ひとりの習得度に開きがあることを実感しました。今後、より一層職員一人ひとりの人権意識が高まり「質の高い福祉サービス」を提供できるよう、人権に注力した研修の実施に努めてまいります。

このような厳しい状況の中、令和2年度は経常収益(収入)総額は約8億7千万円、当期活動増減差額(当期純利益)は約2千4百万円で決算を終えました。地域のニーズに応え、グループホームの増設を進めてまいりましたが地域の皆様からも好評いただいております。地域の期待は高まっています。研修の効果もあり職員の質も上がってきております。また、資格手当や資格取得助成金などを整備し処遇の改善もすすんでおります。

今後、時代や天変地異などで地域ニーズや病気や障害は多様化することが予想されます。職員一人ひとりがコストパフォーマンスを重視し、清潔感あふれる住みやすい設備、温かいおもてなしの出来る職員、福祉の仕事に魅力を感じられる働きやすい職場を作り継続していくことが出来るよう努めます。

2. 運営事業

第二種社会福祉事業

ア 障害福祉サービスの経営

イ 相談支援事業の経営

ウ 障害児通所事業の経営

3.組織

番号	区分	組織名(通称)	役職、職名(数)	合計数
100	本部	評議員会	評議員(9)	9
		理事会	理事長(1)、業務執行理事(2)、理事(5)	7
		監事会	監事(2)	2
		評議員選任解任委員	監事(1)、職員(1)、外部(1)	3
		第三者委員	評議員(1)、その他(1)	2
		本部事務局	理事長(1)、統括施設長(1)、統括部長(1)、部長(2)	(1)4
200	拠点	相談のびる	理事本部兼施設長(1)	(1)
301	拠点	のびる園	施設長(1)、常勤(4)、委託(5)	10
302	拠点	明日の輪	施設長(1)、副施設長(1)、課長(1)、常勤(12)、非常勤(37)	51
303	拠点	大樹	施設長(1)、副施設長(1)、常勤(20)、非常勤(12)	34
304	拠点	美久の杜	施設長(1)、副施設長(1)、常勤(11)、非常勤(29)	42
305	拠点	ひかり	施設長(1)、副施設長(1)、常勤(12)、非常勤(20)、委託(7)	41
306	拠点	はなの里	施設長(1)、課長(1)、常勤(21)、非常勤(4)	27
307	拠点	四季の里	施設長(1)、副施設長(1)、常勤(13)、非常勤(14)	29
400	拠点	放デイ	施設長(1)、副施設長(2)、課長(4)、常勤(11)、非常勤(8)	26
職員合計			管理職職員(25)、常勤(104)、非常勤(124)、委託(12)	265

4.会議等の開催

会議名等	回	開催日	内容
監事監査	1	令和2年6月1日	
評議員会	1	令和2年6月19日	1.R1事業報告2.R1決算報告3.定款変更
理事会	1	令和2年6月5日	報告事項 1.中間報告(理事長、業務執行理事職務執行状況報告) 定時理事会 協議事項 1.R1事業報告及び決算報告2.R2第1次補正予算案 3. 評議員推薦4.評議員選任・解任委員選任 5. 定款変更 6. 新規事業(放デイひかり)7. 施設長任命8.運営資金借入金 9. 夏季賞与10. 諸規則変更11.評議員会日程
	2	令和2年9月11日	報告事項 1. 中間報告(理事長、業務執行理事職務執行状況報告) 協議事項 1.施設長任命2.諸規則変更3.実地指導結果

	3	令和2年12月3日	報告事項 1. 中間報告(理事長、業務執行理事職務執行状況報告) 協議事項 1.賞与2.長期運営資金借入金3.施設長任命4.新規事業及びグループホーム増設(明日の輪放デイあすのわ及び明日の輪GH)5.諸規則変更6.事故報告
	4	令和3年3月5日	報告事項 1. 中間報告(理事長、業務執行理事職務執行状況報告) 協議事項 1. R3事業計画案2. R3当初予算案3.諸規則変更4.施設長任命

5. 法人変更登記

・令和 2 年 6 月 26 日資産変更

6. 施設整備又は重要な修繕

・令和 2 年 4 月に放デイ「翔の輪」開所、令和 2 年 7 月に放デイ「ひかり」開所、令和 2 年 11 月にグループホーム「明日の輪」増所。令和 3 年 4 月放デイ「あすのわ 2」開所準備。

7.本部事務局運営報告

【基本方針】

法人本部事務局は、拠点運営の連携にとっての要です。理事会の決定、承認事項に基づき施設長会議等にて各拠点へ情報発信するとともに、連携を強化していきます。そのために情報の集約を行うとともに、人材育成を重点課題とし、法人理念や職員倫理綱領等に基づき、各拠点施設長が共通認識をもち、法人の社会的使命を果たすためのリーダーシップが発揮できるように尽力しました。

【総務人事部】

(1)業務報告

①理事会・評議員会等の開催

- ・定時及び臨時の理事会や評議員会の日程調整を行い、提案事項や報告事項の充実、正確な議事録の作成に努めました。
- ・経営会議を毎週開催、施設長会議を毎月開催し、ガバナンスの強化、組織や分掌業務の改善を行い管理体制の強化に努めました。
- ・リスクマネジメント委員会の毎月の開催、虐待・感染症対策委員リーダー会議を 3 カ月に 1 度、開催し、事故防止の職員の周知徹底に努めました。
- ・本部主催内部研修を計画的に開催し、OFF-JT・OJT が適切に実地できる教育制度の徹底を図り、人材育成に努めました。
- ・諸規則、書式集、内部研修手引書、その他マニュアルの整備を行い、関係法令、基本理念や倫理綱領、諸規則等の職員周知と遵守徹底に努めました。
- ・事業計画書、事業報告書を作成し、健全な法人運営、事業運営の推進に努めました。
- ・内部通達の周知徹底を図り、確実な拠点への通知に努めました。
- ・関係法令等を遵守必要事項の登記や関係省庁等への申請・届出等の徹底に努めました。

- ・コンプライアンス・プライバシーポリシーを作成し、拠点掲示の周知徹底に努めました。
- ・車両整備の徹底、安全運転のポスター掲示、声掛けを行い、職員の交通安全の意識向上に努めました。
- ・定期的な施設の巡視を行い、施設設備や施設周辺の営繕に努めました。
- ・自然災害・感染症・虐待事故など緊急時に迅速な対応に努めました。特に今年度は新型コロナの対策に注力し、施設での発生はありませんでした。
- ・労務管理書類作成から勤怠・給与事務を一元管理し、働き方改革等による多様化する働きやすい環境整備を行い、労務管理の徹底に努めました。
- ・役職手当や資格手当の継続、資格取得助成金整備を行いキャリアアップ制度の強化を行い人材確保に努めました。
- ・ストレスチェックの実施や個別面談によりメンタルヘルスへの取り組みに努めました。

[財務企画課]

(1)業務報告

①財務基盤の改善

- ・当初予算及び補正予算を立案し、適切な予算管理を励行しました。
- ・財務諸表作成・消費税申告等を行い、適切な決算に努めました。
- ・拠点からの請求・領収書などの管理を行い、コストパフォーマンスに努めました。
- ・正確な仕訳伝票・財務諸表・月次報告の作成に努めました。
- ・健全な拠点キャッシュフロー・拠点等各区分間繰入に努めました。
- ・借入金・寄付金・地域のニーズを収集した新規事業等の企画を行い健全な財務管理に努めました。
- ・経理規程に基づき、適正な物品購入や各種契約の徹底に努めました。

[施設支援部]

(1)業務報告

- ・定期的な内部監査の実施・所轄庁指導監査の対応・事業運営の情報収集を行い、適正な拠点運営に努めました。
- ・虐待・感染症対策委員リーダーからの報告・ヒヤリハット報告などによる、リスク把握に努めました。
- ・適正な配置基準の管理に努めました。
- ・関係機関と密な連携を図り、空床の防止・入退去者のスムーズな対応・退去者のフォローアップに努めました。
- ・総務人事部が企画したに基づき、人権意識が高まることを重視した研修を行い、職員の資質の向上に努めました。
- ・ホームページ公開やパンフレット制作を行い、情報公開に努めました。
- ・広報誌を定期的に発行し、事業活動の情報提供に努めました。

※本部主催職員会議・内部研修・・・別紙 1

第2 拠点事業計画

1. 拠点一覧

番号	拠点名	事業	定員	床数
200	相談のびる	○特定相談支援事業 ○一般相談支援事業	-	
301	のびる園	○外部サービス利用型共同生活援助 ○就労継続支援 B 型	12名 20名	12
302	明日の輪	○外部サービス利用型共同生活援助 ○短期入所空床利用型 ○多機能型 ・生活介護 ・就労継続支援 B 型	50名 80名 (6) (44) (30)	50
303	大樹	○介護サービス包括型共同生活援助 ○就労継続支援 B 型	35名 30名	35
304	美久の杜	○介護サービス包括型共同生活援助 ○就労継続支援 B 型	30名 30名	30
305	ひかり	○介護サービス包括型共同生活援助 ○就労継続支援 B 型	28名 20名	28
306	はなの里	○介護サービス包括型共同生活援助 ○短期入所 ○多機能型 ・生活介護 ・就労継続支援 B 型	39名 1名 30名 (6) (24)	40
307	四季の里	○介護サービス包括型共同生活援助 ○就労継続支援 B 型	28名 20名	28
400	放デイ	○放課後等デイサービス 明日の輪 ○放課後等デイサービス 翔の輪	20名 10名	-

2. 事業報告

[障害福祉サービス]

(1) 基本方針

①共同生活援助事業、短期入所

ふれあいの場を提供するとともに、生活体験の広がりの中で、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育むよう支援しました。

居住の場を提供し、地域の中で自立した生活を営むことができるよう、必要な支援を行いました。

利用者一人ひとりの健康と安全に配慮し、安定した生活リズムを形成するとともに、楽しく充実した日々を過ごせるように支援しました。

身近生活自立への支援を通じて、生活習慣とコミュニケーションの形成に努めました。

地域の人々との交流を深め、共生の理念に基づく地域づくりを推進するとともに、障がい者の社会参加に努めました。

① 就労継続支援 B 事業

利用者一人ひとりの健康と安全に配慮し、安定した生活リズムを形成するとともに、楽しく充実した日々を過ごせるように支援しました。

身近生活自立への支援を通じて、生活習慣とコミュニケーションの形成に努めました。

地域の人々との交流を深め、共生の理念に基づく地域づくりを推進するとともに、障がい者の社会参加に努めました。

就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動機会の提供を通じて、利用者一人ひとりのペースに合わせ、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行いました。

多様化する利用者の障害特性やニーズに応えた作業の提供を目指しました。

③生活介護事業

ふれあいの場を提供するとともに、生活体験の広がりの中で、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育むよう支援しました。

利用者の障がいの状況や能力、興味に適した活動場面を提供し、作業や活動への興味をみだし個性や長所の伸長を図りました。

(2) 業務報告

①個別支援計画

・個別支援計画を支援の柱とし、一人ひとりの状況や目標に合わせた支援課題を見出し、自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう適切な支援に努めました。

・本人や家族からの言葉を聞き取り、関係機関の意見も聞き入れ、利用者の意思・主体性を尊重した個別支援計画を策定しました。

・差別や偏見から本来有している力を発揮しきれない状態にある人に対しその力を引き出すための援助(エンパワメント)や利用者の持つ強さ、良さ、長所、コンピテンス(潜在能力)を引き出し、ひとつの行動を肯定的にみた(ストレングスモデル)個別支援計画を策定しました。

・相談支援専門員からのサービス利用計画書に従って、具体的な個別支援計画を策定しました。

・利用者とは十分な話し合いの上での同意に基づき、入所時、入所時以降4月と10月に個別支援策定会議を開催し、個別支援計画書の策定・見直しを行いました。

②利用者支援

○身辺の清潔維持

- ・支援を必要とする個々の利用者に対し、適切な介助と支援を行い習慣化を目指しました。
- ・食事: 咀嚼や嚥下に注意 姿勢やマナーの習得 過食、偏食の支援しました。
- ・排泄: 定時排泄は必要に応じて適切な誘導や介助・清潔保持・失禁の配慮など支援しました。
- ・着脱衣: 身だしなみ・寒暖調整・TPOに応じた服装が適切に出来るよう支援しました。
- ・清潔: 更衣の準備・髪、ひげ、爪の手入れ・入浴などをし清潔を維持することが出来るよう支援しました。

○健康面

- ・健康管理: 健康状態の観察・早期発見・服薬の把握などを行いました。
- ・肥満・生活習慣病予防: 運動の習慣化・過食の防止などを支援しました。
- ・健康診断・健康相談: 年1回の健康診断の推進や体調等の相談等支援しました。
- ・感染症対策: 手洗いやうがいの徹底をし流行期対策や感染後対応等支援しました。

○食事・給食

- ・食事場面の設定: 安全で楽しい環境づくりをし食事後の口腔内、口周の清潔を支援しました。
- ・栄養管理・栄養指導: バランスのよい食事が摂ることが出来るよう支援しました。

○環境整備

- ・建物環境: 建物内外の点検や修繕を行い安全な環境作りを支援しました。

○社会生活(体験)

- ・行事への参加: 自己の主張と他者への配慮・責任と分担が出来るように支援しました。
- ・外出(社会見学や買い物等): 公共の場でのルール・公共施設の利用・場面ごとの安全配慮・四季折々の変化や歳時を実感することが出来るように支援しました。

○作業就労

- ・基礎的な知識・技能・態度が身に付くよう利用者と一緒に仕事に取り組み、働くよろこびを共有し自立した社会生活を送ることが出来るよう支援しました。
- ・利用者個々の意向・適性・作業能力等に加え、高齢化・重度化・重複化を勘案し、適切な作業訓練を行いました。
- ・利用者やその家族の意向、ニーズに基づき、利用者一人ひとりのスピードに合わせ、一般就労に向けた支援を行いました。

③管理運営

○個人情報保護等

- ・個人情報保護等に関する法令、その他の規範を遵守し、個人情報の保護に努めました。
- ・個人情報の利用目的を特定し、公正かつ適切に取り扱いました。

○法令遵守

- ・法令の遵守はもとより、社会規範、慣習等のルール・精神を尊重し、社会的良識をもって行動しました。

○苦情解決

- ・苦情処理体制を整備・拡充し、苦情の際には速やかに必要に応じた対応を行いました。

○リスクマネジメント

- ・ヒヤリハットを作成し、事故防止に努めました。
- ・事故原因の分析と対応策を考え、危険に対する「気づき」の視点を学びました。
- ・リスクマネジメント委員会と連携した中で対応を図りました。

○虐待防止と人権意識向上

- ・年に1回以上虐待防止委員会を開催し、毎月1回以上虐待防止に関する研修を行いました。
- ・常に相手の立場に立ち、適切な支援を心がけました。
- ・毎月、「職員セルフチェック」及び「虐待防止の為の自己チェック」を行いました。
- ・所轄の虐待防止センターと連携し対応を図りました。
- ・人権意識の研修等に積極的に参加し、職員一人ひとりの人権意識を高めていきました。また、毎朝朝礼等において倫理綱領等の唱和を行い人権意識を高めました。
- ・利用者に対して常に適切な接遇やケアが行われているか施設全体で常に意識して業務を行えるよう、注意喚起や情報提供を行い、虐待や身体拘束を未然に防止しました。
- ・研修会を通じて、職員の虐待防止や身体拘束廃止に対する認識の統一を図りました。

○感染症対策

- ・平常時や発生時に対応できるマニュアル(行動計画書)を作成し、新型の感染症にも対応できるBCPも随時作成し、有事に備えました。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、委員会を適宜開催し予防策の周知と情報の共有を徹底し感染予防に努めました。また施設内で発症者が出た場合を想定した対策も検討し、発生時には委員を中心に施設全体で対応していけるよう努めました。
- ・インフルエンザやノロウイルス等の感染症についても、予防策の周知徹底と発生時の対応強化を図り、感染症の蔓延を予防しました。

○環境整備

- ・危険因子の排除や環境改善、設備機器等の点検等を適時実施しました。作業・生活面の両面において日常的な安全意識の高揚により、作業事故、車両事故等の防止に努めました。
- ・環境整備の取り組みとして、施設内外の清掃を毎日行い、年に2回大掃除を行い、安全・快適な環境づくりと環境美化に対する意識の高揚に努めました。

○衛生健康管理

- ・日常の健康チェックを通して、利用者の心身状態の把握に努め、疾病等の早期発見・早期治療の働きかけを行いました。
- ・日々のバイタルチェックを行い、予防接種や健康診断、また研修を通じた職員の知識習得に努めて、病院と連携した健康管理を徹底しました。

○非常災害対策

- ・訓練内容は、より実践的な訓練となるよう協議し、年に1回は消防署当立ち合いのもと消防実地訓練を行いました。
- ・自然災害の地震・津波・風水害・土砂災害毎のマニュアル(行動計画書)の作成見直しを行い、訓練を実施し、備蓄品の確認と整備も随時行っていきました。
- ・地域の協力を得ながら夜間想定を含めた避難訓練を実施し災害意識の啓発と災害発生時の対応に備えました。

○防犯対策

- ・障害のあるなしに関わらず地域とのつながりを大切にしつつ、一方犯罪の被害を抑え、利用者や職員の安全・安心を確保するという両立を図りました。
- ・防犯マニュアルを作成し、施設の最低限の防犯への備えと意識を心がけることができるよう努めました。
- ・施設・個室の施錠励行と確認の徹底も含め被害者とならないことはもちろん、加害者となり得ないように注意しました。

○家族や関係機関との連携

・適切な支援を図るためには、家族や関係機関の理解と協力は必須で欠くことのできないことであり、互いの連携を密にし、信頼関係を保持することに努めました。

○地域貢献活動

・自動販売機を設置し、日本財団等への寄付に努めました。

・地域で開催される諸行事や当法人の行事への相互交流を通して、地域住民と利用者とのふれあいを深め、相互補完による地域福祉の充実強化を図りました。

○職員健康管理

・健康管理には十分留意し、年1回健康診断を実施し(夜間支援員は年2回)健康維持・生活習慣病予防に努めました。

○職員会議

・生活状況や、それぞれの意見について話し合い、利用者が望む生活しやすい空間を作っていました。

・利用者個々の課題や支援方法について検討し、全利用者の共有が全職員が出来るようにしていきました。

○職員研修・行事

※外部研修年間報告・・・別紙2

※内部研修年間報告・・・別紙3

※行事年間計画・・・別紙4

[放課後等デイサービス事業所]

(1)基本方針

支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図りました。

(2)業務報告

① 個別支援計画

・個別支援計画を支援の柱とし、一人ひとりの状況や目標に合わせた支援課題を見出し、自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう適切な支援に努めました。

・本人や家族からの言葉を聞き取り、関係機関の意見も聞き入れ、利用者の意思・主体性を尊重した個別支援計画を策定しました。

・エンパワメントや利用者の持つ強さ、良さ、長所、コンピテンス(潜在能力)を引き出し、ひとつの行動を肯定的にみた(ストレングスモデル)個別支援計画を策定しました。

・相談支援専門員からのサービス利用計画書に従って、具体的な個別支援計画を策定した。

・利用者家族と十分な話し合いの上での同意に基づき、入所時及び誕生日に個別支援策定会議を開催し、個別支援計画書の策定・見直しを行いました。

②利用者等支援

○自立支援と日常生活の充実のための活動

子どもの発達に応じて必要となる基本的日常生活動作や自立生活を支援するための活動を行いました。子どもが意欲的に関わられるような遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育てるようにしました。将来の自立や地域生活を見据えた活動を行う場合には、子どもが通う学校で行われている教育活動を踏まえ、方針や役割分担等を共有できるように学校との連携を図りながら支援を

行いました。

○創作活動

表現する喜びを体験できるようにしました。日頃からできるだけ自然に触れる機会を設け、季節の変化に興味をもてるようにする等、豊かな感性を培うことが出来るよう支援を行いました。

○地域交流の機会の提供

障害があるがゆえに子どもの社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、子どもの社会経験の輪を広げていきました。他の社会福祉事業や地域において放課後等に行われている多様な学習・体験・交流活動等との連携、ボランティアの受け入れ等により、積極的に地域との交流を図っていきました。

○余暇の提供

子どもが望む遊びや自分自身をリラックスさせる練習等の諸活動を自己選択して取り組む経験を積んでいくために、多彩な活動プログラムを用意し、ゆったりとした雰囲気の中で行えるように工夫しました。

○保護者支援

子育ての悩み等に対する相談を行いました。家庭内での養育等についてペアレント・トレーニング等活用しながら子どもの育ちを支える力をつけられるよう支援しました。保護者の時間を保障するために、ケアを一時的に代行する支援を行いました。

③ 管理運営 ※障害福祉サービスと同じ

【特定・一般相談支援事業】

(1)基本方針

障がい者等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、障がい福祉サービスの利用 支援、権利擁護のために必要な援助を行う。また、障がい者が地域で自立して生活していくために、自立支援協議会を運営し、地域のネットワーク体制の構築及び運営強化、権利擁護や成年後見制度等の活用、障がいのある方々の就労や生活全般にかかる相談支援体制の整備を図ることを目的としました。

(2)業務報告

①基本相談

利用者の権利擁護の視点に立ち、福祉サービスの利用に限らず成年後見制度や虐待防止に向けて環境調整等必要な支援を行いました。

関係機関(行政機関・医療機関・教育機関・児童福祉関係者等)と適宜ケア会議など情報交換を行い支援の方向性を確認していきました。

②計画相談

ご本人・ご家族・関係機関・サービス事業所等と信頼関係を深め、情報共有を行いながら利用者ひとりひとりのニーズに応じて計画作成を行い、サービスや環境調整を行っていきました。

③地域移行支援 入所施設及び病院の長期入所者及び入院者の地域移行の計画と住居の確保等 地域生活に移行するための相談・支援をします。

④地域定着支援 単身等で生活する障がい者に対し、緊急訪問や相談等に応じ、常時の見守り 等を行い地域生活の継続を支援をしました。

⑤権利擁護

常に障害者が置かれている立場を代弁するという権利擁護の観点に立ち、障害者の自己決定・自己選択を支援しました。

⑥資質の向上

研修計画を作成し、外部の集合研修や法人研修への参加、および事業所内部研修を実施し、相談支援の基本姿勢を高め、信頼関係を形成する力・相談支援に係る幅広い知識と技術の習得・交渉力・調整力等の資質向上を図りました。

⑦苦情の取り組み

苦情相談窓口を設け、利用者の意見に真摯に対応していくとともに、意見や要望に対しても丁寧に説明や対応を行いサービスの質の向上を図りました。

⑧地域貢献活動

サービス事業所や関係機関等が開催する催し物に積極的に参加しました。

決 算 報 告 書

(自) 令和 2 年 4 月 1 日
(至) 令和 3 年 3 月 31 日

社会福祉法人豊肥福祉会

法人単位資金収支計算書

(自)令和 2年 4月 1日 (至)令和 3年 3月31日

法人名：社会福祉法人豊肥福祉会

(単位： 円)

勘定科目		予算	決算	差異	備考
事業活動による収入	就労支援事業収入	30,212,000	34,076,170	△ 3,864,170	
	障害福祉サービス等事業収入	839,729,000	832,130,039	7,598,961	
	経常経費寄附金収入	0	3,000,000	△ 3,000,000	
	受取利息配当金収入	0	938	△ 938	
	その他の収入	1,596,000	2,203,587	△ 607,587	
	事業活動収入計	871,537,000	871,410,734	126,266	
	事業活動による支出	人件費支出	412,272,000	427,708,393	△ 15,436,393
事業費支出		154,959,000	154,181,617	777,383	
事務費支出		221,419,000	228,386,282	△ 6,967,282	
就労支援事業支出		30,212,000	34,076,170	△ 3,864,170	
支払利息支出		3,600,000	4,373,837	△ 773,837	
事業活動支出計		822,462,000	848,726,299	△ 26,264,299	
事業活動資金収支差額		49,075,000	22,684,435	26,390,565	
施設整備等による収入	施設整備等補助金収入	0	8,009,000	△ 8,009,000	
	施設整備等収入計	0	8,009,000	△ 8,009,000	
	設備資金借入金元金償還支出	144,000	146,740	△ 2,740	
	固定資産取得支出	0	6,545,465	△ 6,545,465	
施設整備等による支出	施設整備等支出計	144,000	6,692,205	△ 6,548,205	
	施設整備等資金収支差額	△ 144,000	1,316,795	△ 1,460,795	
その他の活動による収入	長期運営資金借入金収入	0	178,000,000	△ 178,000,000	
	その他の活動収入計	0	178,000,000	△ 178,000,000	
	長期運営資金借入金元金償還支出	22,704,000	117,040,000	△ 94,336,000	
その他の活動による支出	積立資産支出	3,648,000	3,114,384	533,616	
	その他の活動支出計	26,352,000	120,154,384	△ 93,802,384	
その他の活動資金収支差額	△ 26,352,000	57,845,616	△ 84,197,616		
予備費支出	22,579,000	—	22,579,000		
	0				
当期資金収支差額合計	0	81,846,846	△ 81,846,846		
前期末支払資金残高	0	139,370,897	△ 139,370,897		
当期末支払資金残高	0	221,217,743	△ 221,217,743		

法人単位事業活動計算書

(自)令和 2年 4月 1日 (至)令和 3年 3月31日

法人名：社会福祉法人豊肥福祉会

(単位： 円)

勘定科目		当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	34,076,170	19,140,366	14,935,804
	障害福祉サービス等事業収益	832,130,039	598,256,349	233,873,690
	経常経費寄附金収益	3,000,000	33,100,000	△ 30,100,000
	サービス活動収益計	869,206,209	650,496,715	218,709,494
	費用			
	人件費	430,822,777	316,272,723	114,550,054
	事業費	154,181,617	112,230,804	41,950,813
	事務費	228,386,282	183,490,121	44,896,161
	就労支援事業費用	34,076,170	19,140,366	14,935,804
減価償却費	4,884,964	3,924,839	960,125	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 2,079,284	△ 2,079,284	0	
サービス活動費用計	850,272,526	632,979,569	217,292,957	
サービス活動増減差額	18,933,683	17,517,146	1,416,537	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	938	691	247
	その他のサービス活動外収益	2,203,587	1,767,716	435,871
	サービス活動外収益計	2,204,525	1,768,407	436,118
	費用			
	支払利息	4,373,837	2,901,206	1,472,631
サービス活動外費用計	4,373,837	2,901,206	1,472,631	
サービス活動外増減差額	△ 2,169,312	△ 1,132,799	△ 1,036,513	
経常増減差額	16,764,371	16,384,347	380,024	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	8,009,000	0	8,009,000
	特別収益計	8,009,000	0	8,009,000
費用				
特別費用計	0	0	0	
特別増減差額	8,009,000	0	8,009,000	
当期活動増減差額	24,773,371	16,384,347	8,389,024	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	△ 94,912,376	△ 111,296,723	16,384,347
	当期末繰越活動増減差額	△ 70,139,005	△ 94,912,376	24,773,371
	基本金取崩額	0	0	0
	その他の積立金取崩額	0	0	0
	その他の積立金積立額	0	0	0
	次期繰越活動増減差額	△ 70,139,005	△ 94,912,376	24,773,371

法人単位貸借対照表

令和 3年 3月31日現在

法人名：社会福祉法人豊肥福社会

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当 年 度 末	前 年 度 末	増 減		当 年 度 末	前 年 度 末	増 減
流動資産	252,521,804	163,609,225	88,912,579	流動負債	170,304,061	84,238,328	86,065,733
現金預金	88,763,224	43,468,417	45,294,807	未払金	30,670,218	23,544,328	7,125,890
未収金	143,229,955	104,106,481	39,123,474	1年以内返済予定長期運営資金借入金	139,000,000	60,000,000	79,000,000
前払金	13,338,900	11,395,000	1,943,900	預り金	40,243	4,900	35,343
仮払金	7,189,725	4,639,327	2,550,398	仮受金	10,000	0	10,000
				未払消費税等	583,600	689,100	△ 105,500
固定資産	71,780,951	69,354,178	2,426,773	固定負債	114,106,339	131,526,807	△ 17,420,468
基本財産	55,622,850	58,800,744	△ 3,177,894	設備資金借入金	548,851	695,591	△ 146,740
土地	3,500,000	3,500,000	0	長期運営資金借入金	107,037,000	125,077,000	△ 18,040,000
建物	52,122,850	55,300,744	△ 3,177,894	退職給付引当金	6,520,488	5,754,216	766,272
その他の固定資産	16,158,101	10,553,434	5,604,667	負債の部合計	284,410,400	215,765,135	68,645,265
建物	4,161,022	2,854,282	1,306,740				
構築物	4	4	0	純 資 産 の 部			
機械及び装置	162,016	203,505	△ 41,489	基本金	83,469,867	83,469,867	0
車輛運搬具	756,508	545,174	211,334	国庫補助金等特別積立金	26,561,493	28,640,777	△ 2,079,284
器具及び備品	4,184,563	872,753	3,311,810	その他の積立金	0	0	0
権利	73,500	73,500	0	次期繰越活動増減差額	△ 70,139,005	△ 94,912,376	24,773,371
出資金	300,000	250,000	50,000	(うち当期活動増減差額)	24,773,371	16,384,347	8,389,024
退職給付引当資産	6,520,488	5,754,216	766,272	純資産の部合計	39,892,355	17,198,268	22,694,087
資産の部合計	324,302,755	232,963,403	91,339,352	負債及び純資産の部合計	324,302,755	232,963,403	91,339,352